教育と不平等
及びその解消に関する研究

最終更新日：2015年8月25日

学校教育講座
准教授
川口　俊明

キーワード　・教育と不平等　・学力格差　・学校教育の効果

研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

子どもたちの育ちには、家庭環境やかれらを取り巻く状況が大きな影響を及ぼしています。結果として、**恵まれた家庭環境に育つ子どもと、そうでない子どもの間には、就学前段階で、すでに大きな不平等が生じています**。家庭環境によって学力に差が生じる、「学力格差」問題は、その典型的な例でしょう。

私の研究の特徴は、三点に要約できます。一つ目は、***学力格差をはじめとする、教育の不平等がどのように生じるのかを明らかにすること***です。現在は、学力格差や、家庭環境と子育ての関連に関する研究を進めています。二つ目は、***教育の不平等を学校教育によって解消する方法を探ること***です。格差解消に有効な実践を探るため、「学校教育の効果」をどのように測定するのかという研究を進めています。第三に、***教育の不平等を実証的に明らかにするための基盤となる教育調査法の探求***です。学力調査・アンケートの計量分析（いわゆる量的手法）と、学校・学級での参与観察・インタビュー調査（いわゆる質的手法）の両者を組み合わせた、混合研究法の有効性について研究を進めています。

教育の不平等	学校教育の効果	教育調査
• 学力格差 • 家庭環境と子育て	• 格差解消の実践 • 実践の効果測定	• 計量分析 • 参与観察／インタビュー

成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

私の研究成果は、学校現場はもちろんですが、とくに格差解消を目指す教育行政に資するものです。**教育と不平等を把握するためには、適切な教育調査の実施・分析が不可欠です。**近年、全国各地で、自治体による学力調査が頻繁に実施されていますが、ほとんどの調査は専門家のアドバイスを受けたものではないため、学力格差解消の政策立案に十分活かせるものにはなっていません。

教育の不平等を改善するためには、何よりも、適切な現状の把握が重要です。**その上で、改善方法を検証し、実際にその改善方法がどのような成果を上げたのかという、効果測定を行わなければなりません。**こうした作業を行うときに、私がこれまで学んできた知識や、習得してきた教育調査の技法を役立てることが可能です。

残念ながら、日本では学歴や年収を調査することに対する教育現場の忌避感が非常に強く、私の研究成果を十分に活かすことはできていません。しかし、学力格差をはじめとする教育の不平等を解消するためには、踏み込んだ調査を避けて通ることは、もはやできないと考えています。同じような志を持った方々との共同研究が実現できることを望みます。

不平等の実態把握 → 改善方法の検討 → 効果測定 → 新しいプランの提案

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

・A市の小学校における、学力格差の実態把握（個人研究）
・A市の小中学校における、学力調査の改善に関する研究（A市教育委員会よりの委託研究）
・B市における学力・生活実態調査の分析に関する研究（B市教育委員会よりの委託研究）